



2025年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年6月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ストリーム
コード番号 3071 URL <https://www.stream-jp.com/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)齊藤 勝久
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)齊 向東
四半期報告書提出予定日 2024年6月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年1月期第1四半期の連結業績(2024年2月1日~2024年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年1月期第1四半期	7,221	6.3	6	142.7	4	250.9	2	—
2024年1月期第1四半期	6,793	△17.3	2	△98.3	1	△99.2	△9	—

(注) 包括利益 2025年1月期第1四半期 2百万円 (—%) 2024年1月期第1四半期 △12百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2025年1月期第1四半期	円 銭 0 08	円 銭 — —
2024年1月期第1四半期	△0 35	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年1月期第1四半期	6,378	2,910	45.1
2024年1月期	6,203	2,989	47.6

(参考) 自己資本 2025年1月期第1四半期 2,874百万円 2024年1月期 2,954百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年1月期	— —	0 00	— —	3 00	3 00
2025年1月期	— —				
2025年1月期(予想)		0 00	— —	3 00	3 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年1月期の連結業績予想(2024年2月1日~2025年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,649	15.3	562	207.9	538	232.4	362	—	13 11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年1月期1Q	28,525,000株	2024年1月期	28,525,000株
② 期末自己株式数	2025年1月期1Q	888,500株	2024年1月期	888,500株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年1月期1Q	27,636,500株	2024年1月期1Q	27,288,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2024年2月～2024年4月)におけるわが国経済は、インバウンドによる外国人観光客の増加もあり、総じて緩やかな回復基調にあります。一方、エネルギー資源や原材料価格の高騰、円安に伴う物価上昇が個人消費に与える影響等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループは、お客様のライフスタイル作りのサポートとして「より良い商品」「より良い価格」「より良いサービス」をモットーに、新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既成概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

①インターネット通販事業

当第1四半期連結累計期間(2024年2月～2024年4月)における国内の家電小売業界におきましては、旅行や各種イベントが正常化したことによりデジタルカメラ関連は引き続き好調だったものの、物価高による消費マインドの低下や買い替え需要の鈍化の影響もあり生活家電、テレビ、パソコン等総じて前年に比べ低調に推移いたしました。

このような状況の中、当社が出店する「Yahoo!ショッピング」「楽天市場」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上高は、ポイント等の効果的な販促施策の展開により、冷蔵庫、スマートフォン、デジタルカメラ、カメラ用レンズ、ディスプレイ、ヘッドフォンを中心に好調に推移いたしました。今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上高確保に努めてまいります。

商品購入検討時の問い合わせ用にWEB接客ツールのチャット機能を導入している「ecカレント」オリジナルサイト、「楽天市場」及び「Yahoo!ショッピング」の外部サイトにおける大型家電の配送設置サービスは、きめ細やかな接客を通してそれぞれのユーザーに合った提案を行うよう努めております。また、エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の大型商品のご注文の際、不明な点、質問に対して「ecカレント設置ご相談ダイヤル」を設置し、オペレーターが電話にて丁寧に対応させて頂いております。さらに、都内23区を中心としたエリアにおいて最短2日で、大型家電品の設置配送を行うサービスについて、よりお得な商品をお買い求め頂けるよう一層の商材の充実を図りました。また、スピーディーに届けられるよう更なる納期短縮の取組みを行いました。

2024年3月に開催された「au PAY マーケット」の「BEST SHOP AWARD 2023」において、「ecカレント」が、パソコン・PC周辺機器カテゴリ大賞を受賞しました。また、同月に開催された「Yahoo!ショッピング Best Store Awards 2023」では、当社運営の「イーベスト」が、「家電、オーディオ、カメラ部門」第3位を受賞しました。

2024年4月、当社が運営している「ecカレント」及び「イーベスト」のオリジナルサイトにおいて、新たな決済方法として株式会社NTTドコモが提供する決済サービス「d払い」を導入しました。今回、「d払い」を導入することにより、ドコモのケータイ回線をお持ちのお客様が、購入手続き時に4桁のパスワード(spモードパスワードもしくはネットワーク暗証番号)をご入力いただくことで決済ができるようになり、同サイトへの集客効果に繋げております。

当社が運営する家電レンタルサイト「レントコ」においては、オープン4周年を記念しまして4月より期間中に一度のお会計で10,000円以上のレンタル時に使える1,500円オフクーポン及び5,000円以上のレンタル時に使える500円オフクーポンを全ての会員の皆さまへプレゼントするキャンペーンを開催し、販促強化を図りました。

各カテゴリにおける前年同四半期比では家電5.0%増、パソコン38.5%増、周辺機器・デジタルカメラ1.9%減となりました。

売上高及び利益面に関しましては、食料等生活必需品の価格高騰による消費者の節約志向の影響はあるものの、前年同四半期比で増収増益となりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高は6,988百万円(前年同四半期比7.0%増)、営業利益128百万円(前年同四半期比5.1%増)となりました。

インターネット通販事業の売上・受注件数等の推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	受注件数(千件)	棚卸資産回転率 (回転/年換算)
当第1四半期連結累計期間	6,988	128	261	11.2
前第1四半期連結累計期間	6,531	122	281	10.3

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第1四半期連結累計期間	3,289	1,305	2,098	294	6,988
前第1四半期連結累計期間	3,131	942	2,139	318	6,531

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

②ビューティー&ヘルスケア事業

株式会社エクスワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業においては、新商品として、2024年1月に一台で7つの機能を搭載した家庭用美顔器「エクスビューティープロ (X-Beauty Pro)」、3月に毎日おやつ感覚で手軽においしく、バリア成分「フコイダン」を摂れる認定健康食品「めかぶで健康」、そして4月に身体と心を整え、明日への力を育む『至福の眠り』へ誘う機能性素材「プラチナウェーブ」使用の寝具「KAIMIN STORY プラチナ」を発売し、おかげさまで売上高は堅調に推移いたしました。

会員ビジネスにおいては、WEB会議アプリケーションによる動画(ライブ含む)配信を活用したオンラインセミナーに加えて、2024年2月から4月にかけて東京、大阪、福岡、新潟で対面でのセミナーを開催し、会員とのきめ細やかなコミュニケーションを行っており、売上高は堅調に推移いたしました。

エクスワンの直営店舗「エクスリユークス横浜」では、2024年3月に春のコスメフェアを実施し、ファンデーションセットに使用可能なアプリクーポンの配布や、4月よりオープン2周年記念として店内商品半額セール、又3,000円以上購入で豪華景品の当たる抽選券プレゼント等の各種販促施策により、化粧品を中心に実際に手にとつて実感してもらえるようブランディングの強化を図りました。

また、ウェルエイジングクリニック南青山と提携を行い、株式会社エクスワンがこれまで培ってきたエイジングケアに関するノウハウを活用し、インスタライブのイベントサポート等の各種サービスを展開しております。

売上高に関しましては、会員向けビジネスは概ね計画通り推移する一方で、卸販売について免税店舗では欧米、アジアからの訪日観光客がコロナ禍前の水準に戻ってきているのに対して、中国からの訪日観光客の本格的な回復にはまだ時間を要するものの、全体として前年同四半期を僅かながら上回る結果となりました。利益面に関しましては、コスト削減の効果もあり前年同四半期比で営業損失は縮小いたしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高は178百万円(前年同四半期比0.0%増)、営業損失8百万円(前年同四半期は28百万円の営業損失)となりました。

ビューティー&ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第1四半期連結累計期間	92	58	27	178
前第1四半期連結累計期間	83	43	51	178

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

③その他事業（「各種販売支援事業」、「3PL事業」、「不動産事業」）

「各種販売支援事業」においては、ラオックス・グローバルリテーリング株式会社の国内免税店舗等において訪日観光客向け販売や株式会社エクスワン商品の会員向け販売のシステム・物流支援等を行っております。

「3PL事業」においては、当社が運営する「ecカレント」をはじめインターネット通販サイト運営で培ってきたノウハウを基に、販売から物流までワンストップで管理する質の高いシステムをインターネット通販事業者の皆さまに対して提供してきた実績を活かし、物流倉庫・受注管理・出荷の包括的な物流支援サービスである本事業の更なる強化を図っております。パソコンや家電以外に自転車等のアイテムやスポット対応等柔軟な対応により、ビジネスは堅調に推移しております。

「不動産事業」においては、国内案件のみならず、海外のお客様も対象に、不動産の売買・賃貸等に関する仲介事業を展開しております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は70百万円（前年同四半期比33.8%減）、営業損失3百万円（前年同四半期は10百万円の営業利益）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高7,221百万円（前年同四半期比6.3%増）、営業利益6百万円（前年同四半期比142.7%増）、経常利益4百万円（前年同四半期比250.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2百万円（前年同四半期は9百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ174百万円増加し、6,378百万円となりました。これは主に、現金及び預金282百万円増加、商品125百万円減少によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ253百万円増加し、3,467百万円となりました。これは主に、買掛金1,106百万円増加、短期借入金800百万円減少によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ78百万円減少し、2,910百万円となりました。これは主に、配当金の支払82百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ282百万円増加し、931百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、1,243百万円(前年同四半期は256百万円増加)となりました。収入の主な内訳は、棚卸資産の減少額129百万円、仕入債務の増加額1,106百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、65百万円(前年同四半期は72百万円使用)となりました。支出の主な内訳は、無形固定資産の取得による支出37百万円、貸付けによる支出23百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、895百万円(前年同四半期は89百万円使用)となりました。支出の主な内訳は、短期借入金の純減額800百万円、長期借入金の返済による支出17百万円、配当金の支払額76百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年1月期の業績予想に関しましては、2024年3月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	649,210	931,518
売掛金	1,516,624	1,500,557
商品	2,865,762	2,740,086
その他	125,964	134,644
流動資産合計	5,157,562	5,306,807
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	119,736	117,368
工具、器具及び備品（純額）	77,857	78,972
土地	2,003	2,003
有形固定資産合計	199,597	198,344
無形固定資産		
ソフトウェア	333,720	336,710
その他	14,890	15,192
無形固定資産合計	348,611	351,902
投資その他の資産		
投資有価証券	315	315
出資金	16,270	16,270
差入保証金	350,532	350,471
その他	219,307	243,060
貸倒引当金	△88,876	△88,876
投資その他の資産合計	497,548	521,241
固定資産合計	1,045,758	1,071,488
資産合計	6,203,320	6,378,296

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,260,785	2,367,777
短期借入金	1,000,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	71,928	71,928
未払金	554,122	517,600
未払法人税等	33,314	10,056
賞与引当金	4,666	11,666
その他	116,803	126,116
流動負債合計	3,041,620	3,305,145
固定負債		
長期借入金	109,758	91,776
その他	62,885	70,788
固定負債合計	172,643	162,564
負債合計	3,214,263	3,467,709
純資産の部		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	885,633	885,633
利益剰余金	1,254,515	1,173,901
自己株式	△109,659	△109,659
株主資本合計	2,954,919	2,874,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	37	37
その他の包括利益累計額合計	37	37
新株予約権	7,190	9,587
非支配株主持分	26,908	26,655
純資産合計	2,989,056	2,910,586
負債純資産合計	6,203,320	6,378,296

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年2月1日 至2023年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年2月1日 至2024年4月30日)
売上高	6,793,601	7,221,439
売上原価	5,624,527	6,029,407
売上総利益	1,169,074	1,192,032
販売費及び一般管理費	1,166,435	1,185,628
営業利益	2,638	6,403
営業外収益		
受取利息	8	522
受取手数料	198	173
為替差益	310	166
その他	177	591
営業外収益合計	695	1,454
営業外費用		
支払利息	1,296	2,586
支払手数料	812	973
営業外費用合計	2,108	3,559
経常利益	1,224	4,297
特別損失		
固定資産除売却損	2,714	-
リース解約損	-	3,801
特別損失合計	2,714	3,801
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,489	496
法人税等	10,542	△1,546
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△12,031	2,042
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,462	△253
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△9,569	2,295

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△12,031	2,042
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	0
その他の包括利益合計	△7	0
四半期包括利益	△12,038	2,042
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△9,576	2,296
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,462	△253

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年2月1日 至2023年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年2月1日 至2024年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,489	496
減価償却費	37,068	44,800
賞与引当金の増減額(△は減少)	7,000	7,000
受取利息及び受取配当金	△8	△522
支払利息	1,296	2,586
為替差損益(△は益)	△268	△166
固定資産除売却損益(△は益)	2,714	-
リース解約損	-	3,801
売上債権の増減額(△は増加)	103,517	16,067
棚卸資産の増減額(△は増加)	△296,750	129,033
仕入債務の増減額(△は減少)	698,936	1,106,991
その他	△262,679	△39,998
小計	289,337	1,270,090
利息及び配当金の受取額	8	522
利息の支払額	△1,276	△2,586
法人税等の支払額	△31,543	△24,946
営業活動によるキャッシュ・フロー	256,525	1,243,078
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△52,267	△4,242
無形固定資産の取得による支出	△30,239	△37,999
貸付けによる支出	-	△23,000
差入保証金の差入による支出	-	△11
差入保証金の回収による収入	11,042	239
その他	△879	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△72,343	△65,014
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	△800,000
長期借入金の返済による支出	△13,822	△17,982
配当金の支払額	△75,015	△76,776
その他	△1,067	△998
財務活動によるキャッシュ・フロー	△89,905	△895,756
現金及び現金同等物に係る換算差額	260	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	94,537	282,307
現金及び現金同等物の期首残高	1,133,762	649,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,228,300	931,518

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年2月1日 至 2023年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	インター ネット 通販事業	ビューティ ー&ヘルス ケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,529,716	173,615	90,270	6,793,601	—	6,793,601
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,555	5,072	15,700	22,329	△22,329	—
計	6,531,271	178,688	105,971	6,815,930	△22,329	6,793,601
セグメント利益又は損失(△)	122,232	△28,773	10,648	104,108	△101,470	2,638

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△101,470千円は、セグメント間取引消去△529千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△100,940千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及び3PL事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年2月1日 至 2024年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	インター ネット 通販事業	ビューティ ー&ヘルス ケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,987,615	175,846	57,977	7,221,439	—	7,221,439
セグメント間の内部売上高 又は振替高	519	2,883	12,219	15,622	△15,622	—
計	6,988,134	178,729	70,197	7,237,061	△15,622	7,221,439
セグメント利益又は損失(△)	128,408	△8,706	△3,021	116,680	△110,276	6,403

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△110,276千円は、セグメント間取引消去△564千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△109,711千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業、3PL事業及び不動産事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。